

- 育学会第40回大会号、180、(1989)
- 8) 加賀秀夫: スポーツ競技意欲、S55年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.4、スポーツ選手の心理的適性に関する研究第一報7、(1980)
- 9) 喜戸脩: 女性競技者のスポーツ参加の研究(3) スポーツ参加態度と競技動機の関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.1、1-11(1983)
- 10) 久保玄次: 女子スポーツ選手の競技態度と不安傾向について、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告212-215、(1981)
- 11) 久保玄次: 女子ジュニア選抜選手の競技に対する意欲・態度と不安傾向について、愛媛県体育協会スポーツ科学研究報告、28-34(1981)
- 12) 久保玄次: 競技意欲と不安傾向について、一中学・高校選手の特徴について、日本体育学会第33回大会号、226、(1982)
- 13) 久保玄次、兵頭寛、加賀秀夫: TSMIによる愛媛県ジュニア選抜陸上競技選手の3ヶ年の追跡スポーツ心理学研究、11(1)、63-65、(1984)
- 14) 久保玄次: 女子選手におけるシーズン・オフシーズンの変動および栄養摂状況での関連、愛媛県体育協会スポーツ科学研究報告、28-34、(1984)
- 15) 久保玄次: 高等学生の競技達成動機と集団適応との関係について、愛媛大学教養部保健体育学論集、41-48(1985)
- 16) 久保玄次、加賀秀夫: 愛媛県代表国体出場選手における競技種目類型及び競技成績とTSMIの得点との関係、スポーツ心理学研究、14(1)、100-103、(1987)
- 17) 松田岩男他: スポーツ選手の心理適性に関する研究第3報、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.3、8-9、(1981)
- 18) 中西光雄他: ホッケー選手の体力強化とスキルに関する研究(2)、S59年日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2、109-118、(1984)
- 19) 西田保、松井秀治: TSMIからみた高校全国大会(名古屋インターハイ)出場陸上競技選手の心理的適性について、S58年日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2、424-436、(1983)
- 20) 岡沢詳訓、松井康浩: 卓球選手の心理適性に関する研究、S57年日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2、183-186、(1982)
- 21) 岡沢詳訓、猪俣公宏: トップレベルの卓球選手の心理的適性について、日本スポーツ心理学研究、9(1)、44-47(1982)
- 22) 杉原隆: 女子スポーツ選手の心理適性に関する研究、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、33-44(1981)
- 23) 杉原隆: モーターポート選手(プロ)のTSMIプロフィール、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.3、31-37(1982)
- 24) 杉原隆: 女子スポーツ選手の経験年数からみた競技動機の特徴、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.112-21、(1982)
- 25) 杉原隆: 陸上競技と水泳の成績向上に關与する競技動機の男女比較、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.1、21-26、(1983)
- 26) 豊田一成、沢淳一、町田登、高木悟: 女子スポーツ選手の大会を中心とした心理的変容に関する研究—中・高校生—、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.1、140-146、(1983)
- 27) 財満義輝、調枝孝治、坂手照憲: 競技前、競技中の心理要因に対する選手と監督、コーチの評価、スポーツ心理学研究、11(1)、58-65、(1984)
- 28) 横堀栄、沢田芳男: 「スポーツ適性」、大修館書店、(1965)

とは異なるものであった。

表5および図5はTSMI下位尺度得点の女子における群間の比較である。統計的に有意な差があったのはTSMI(闘志)だけであったが、全体的にみてF-1群の方が望ましい傾向を示しており、特に達成意欲が高く、男子の傾向とは異なるものであった。

1)2)5)13)16)19)20)

競技能力別に検討したこれまでの研究成果と本研究における男子の結果は異なる傾向を示したが、本研究の全対象者が日本を代表する選手であることからバドミントン競技能力にさほど差がないと考えられる。したがって、より低い競技レベルの選手群との比較が必要とされるのかもしれない。

#### 4. 要約

本研究は、我が国の傑出バドミントン選手(男子25名、女子25、合計50名)の体格適性(身長、体重、体格指数)および心理的適性(TSMI)について調査し、バドミントン競技適性の一資料を得ようとしたものである。

本研究の範囲内で以下のような結果を得た。

1. 男子の平均身長は175.3cm<sup>2</sup>(5.3)、体重は69.2kg(7.0)、女子は163.7cm<sup>2</sup>(5.8)、体重は56.8kg(5.3)であった。同年代の者の体格値と比較して男女とも身長および体重は有意に大きかった。( )内は標準偏差。
2. 男女とも競技能力別の身長、体重および体重差指数の差は統計的に有意ではなかった。
3. 身長と体重の相関係数は、男子が0.848、女子が0.755と極めて高く、体格適性の存在が確認された。
4. TSMIにおける下位尺度得点で基準値と比較して、男子では「勝利志向性」が有意に高く、

「技術向上意欲」と「コーチ受容」が有意に低かった。女子では、「精神的強靱さ」、「コーチ受容」および「不節制」が有意に低かった。

5. TSMI下位尺度得点の男女比較では、男子の「冷静な判断」と「不節制」が有意に高かった。
6. TSMI下位尺度得点の競技能力別の比較では、男子はすべての尺度で有意な差はなかった。女子では、上位群の方が全体的に望ましい傾向を示したが、統計的に有意な差があったのは「闘志」のみであった。

#### 5. 参考文献

- 1) 藤田明男:バドミントン競技適性に関する研究(第1報)一全国選抜ジュニア選手の心理的適性と体格適性一千葉敬愛短期大学紀要、10、23-31、(1987)
- 2) 藤田明男:バドミントン競技適性に関する研究(第1報)一高校選手と大学選手の心理的適性と体格適性一千葉敬愛短期大学紀要、11、13-22、(1988)
- 3) 橋羽裕男他:石川県国体候補選手の生理・生化学および形態・機能的体力特性と心理特性(3報)、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.1、159-177、(1983)
- 4) 堀本宏、岡沢祥訓、吉沢洋二、猪俣公宏:中国ジュニア世界選手権大会代表チーム・日本ユニバースバスケットボール代表選手のTSMIの特徴、スポーツ心理学研究、12、(1)、58-60、(1985)
- 5) 石井源信他:軟式庭球選手の体力および心理的適性に関する研究、S56年日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、159-173、(1982)
- 6) 石井源信、井敬、山本裕二、小山哲:軟式庭球選手の心理的適性に関する研究一競技意欲の実態について一、S59年日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2、45-48、(1984)
- 7) 磯貝浩久、猪俣公宏、山本勝昭:球技プレーヤーの心理的適性に関する比較文化研究Ⅱ一日米のトッププレーヤーの競技達成動機について一、日本体

表 5 T S M I 下位尺度得点の群別の比較 (女子)

尺 度・得 点	F-1 N=17		F-2 N=8		t
	$\bar{X}$	S.D	$\bar{X}$	S.D	
1.目 標 へ の 挑 戦	23.0	2.8	20.6	2.6	1.961
2.技 術 向 上 意 欲	25.1	3.5	22.6	4.2	1.496
3.困 難 の 克 服	23.5	3.5	22.9	3.4	0.387
4.勝 利 志 向 性	22.4	3.3	22.9	3.0	-0.349
5.失 敗 不 安	21.4	3.0	21.5	3.8	-0.068
6.緊 張 性 不 安	19.2	2.9	20.6	3.2	-1.044
7.冷 静 な 判 断	18.3	2.0	16.8	1.7	1.758
8.精 神 的 強 韌 さ	18.9	2.1	17.9	1.4	1.175
9.コ ー チ 受 容	19.7	4.4	19.5	5.7	0.092
10.対 コ ー チ 不 適 応	18.6	3.5	18.8	6.4	-0.097
11.闘 志	25.8	3.4	22.5	3.7	2.110 *
12.知 的 興 味	24.0	3.6	23.5	3.5	0.313
13.不 節 制	16.8	2.6	19.1	2.4	-2.028
14.練 習 意 欲	19.2	3.3	17.8	1.1	1.122
15.競 技 価 値 感	23.6	3.4	22.0	3.6	1.033
16.計 画 性	20.0	3.1	19.9	2.6	0.076
17.努力への因果帰属	24.2	3.1	23.4	1.4	0.669
18.応答への正確性	36.6	2.3	36.8	1.9	-0.205

\* P<0.05

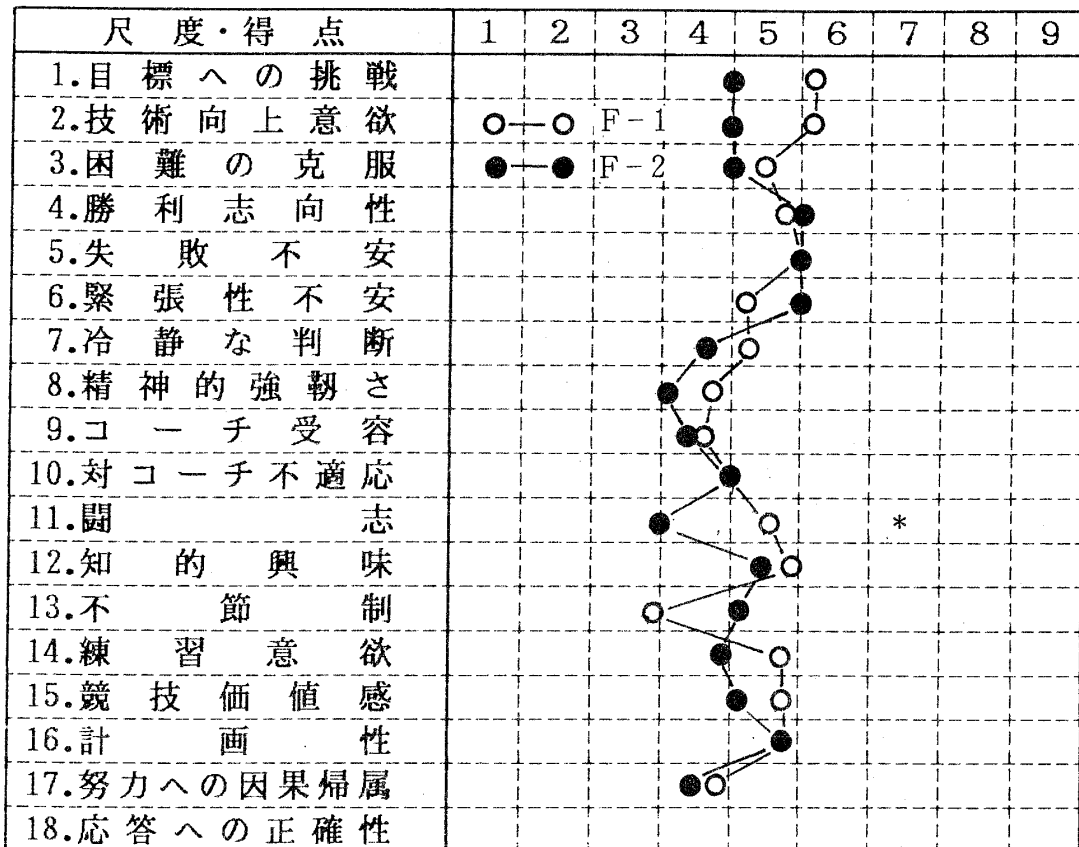


図 5. T S M I 下位尺度の群間の比較 (女子)

表4 TSMI下位尺度得点の群別の比較(男子)

尺度・得点	M-1 N=9		M-2 N=16		t
	$\bar{X}$	S.D	$\bar{X}$	S.D	
1.目標への挑戦	21.2	3.9	21.8	3.2	-0.398
2.技術向上意欲	21.3	2.9	22.8	3.6	-1.026
3.困難の克服	22.2	2.6	22.7	3.3	-0.375
4.勝利志向性	22.6	4.1	23.9	3.4	-0.816
5.失敗不安	21.7	2.9	18.5	4.1	1.984
6.緊張性不安	19.2	2.7	17.6	4.1	1.007
7.冷静な判断	18.6	3.5	20.3	3.8	-1.059
8.精神的強靱さ	18.9	3.0	21.2	4.4	-1.339
9.コーチ受容	20.9	0.7	19.2	3.5	1.382
10.対コーチ不適應	18.0	2.7	17.7	3.6	0.209
11.闘志	25.4	2.6	25.6	3.5	-0.144
12.知的興味	21.2	4.4	24.3	5.7	-1.354
13.不節制	19.8	2.7	19.8	3.0	0.000
14.練習意欲	17.9	2.2	18.9	3.6	-0.727
15.競技価値感	23.1	2.8	23.5	2.2	-0.378
16.計画性	19.2	3.0	20.8	3.3	-1.153
17.努力への因果帰属	24.4	3.1	25.2	3.0	-0.607
18.応答への正確性	33.8	3.9	35.2	2.7	-1.012

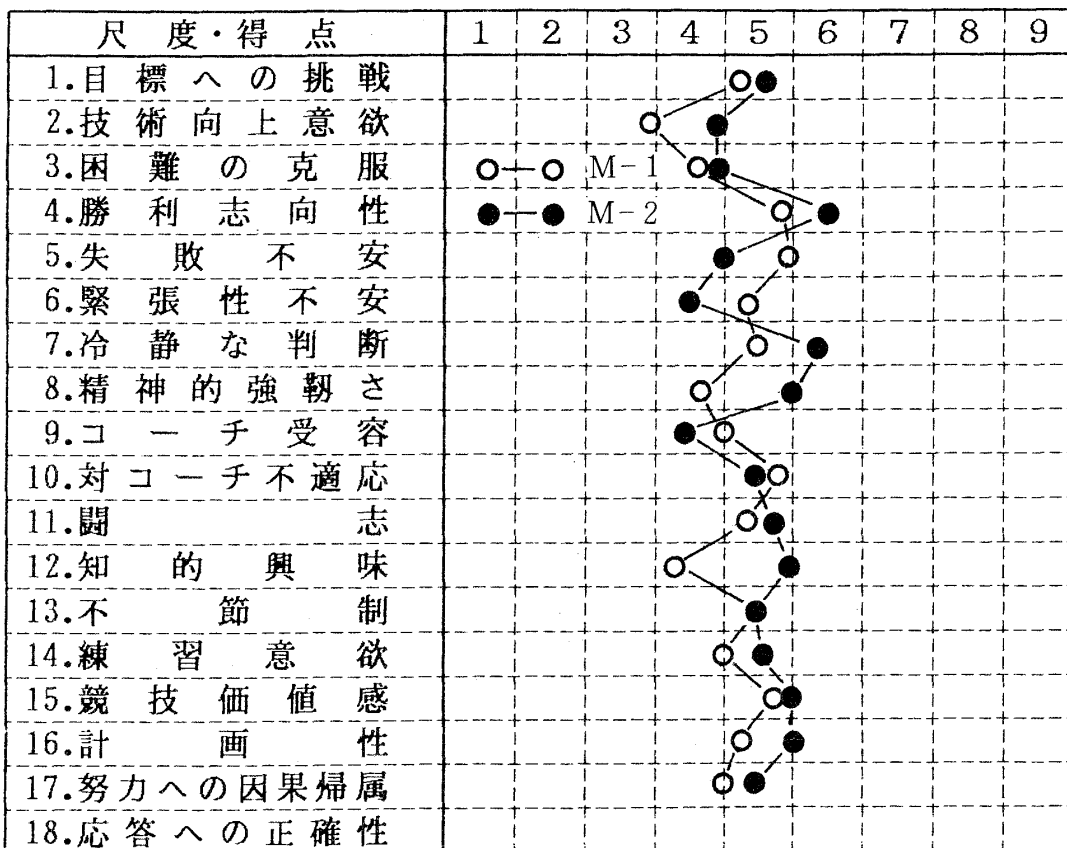


図4. TSMI下位尺度の群間の比較(男子)

表 3 TSMI 下位尺度得点の男女比較

尺 度・得 点	男 子 N=25		女 子 N=25		t
	$\bar{X}$	S.D	$\bar{X}$	S.D	
1.目 標 へ の 挑 戦	21.6	3.5	22.2	3.0	-0.638
2.技 術 向 上 意 欲	22.2	3.4	24.3	3.9	-1.988
3.困 難 の 克 服	22.5	3.1	23.3	3.5	-0.838
4.勝 利 志 向 性	23.4	3.7	22.5	3.2	0.901
5.失 敗 不 安	19.6	4.0	21.4	3.3	-1.701
6.緊 張 性 不 安	18.2	3.7	19.6	3.1	-1.421
7.冷 静 な 判 断	19.6	3.8	17.8	2.1	2.031 *
8.精 神 的 強 韌 さ	20.4	4.1	18.6	2.0	1.933
9.コ ー チ 受 容	19.8	3.0	19.6	4.9	0.171
10.対 コ ー チ 不 適 応	17.8	3.3	18.7	4.6	-0.779
11.闘 志	25.5	3.2	24.8	3.8	0.690
12.知 的 興 味	23.2	5.4	23.8	3.6	-0.453
13.不 節 制	19.8	2.9	17.6	2.8	2.674 *
14.練 習 意 欲	18.6	3.2	18.7	2.9	-0.113
15.競 技 価 値 感	23.4	2.4	23.1	3.6	0.340
16.計 画 性	20.2	3.3	20.0	2.9	0.223
17.努 力 へ の 因 果 帰 属	24.9	3.1	24.0	2.1	1.178
18.応 答 へ の 正 確 性	34.7	3.2	36.7	2.1	-2.560

\* P<0.05

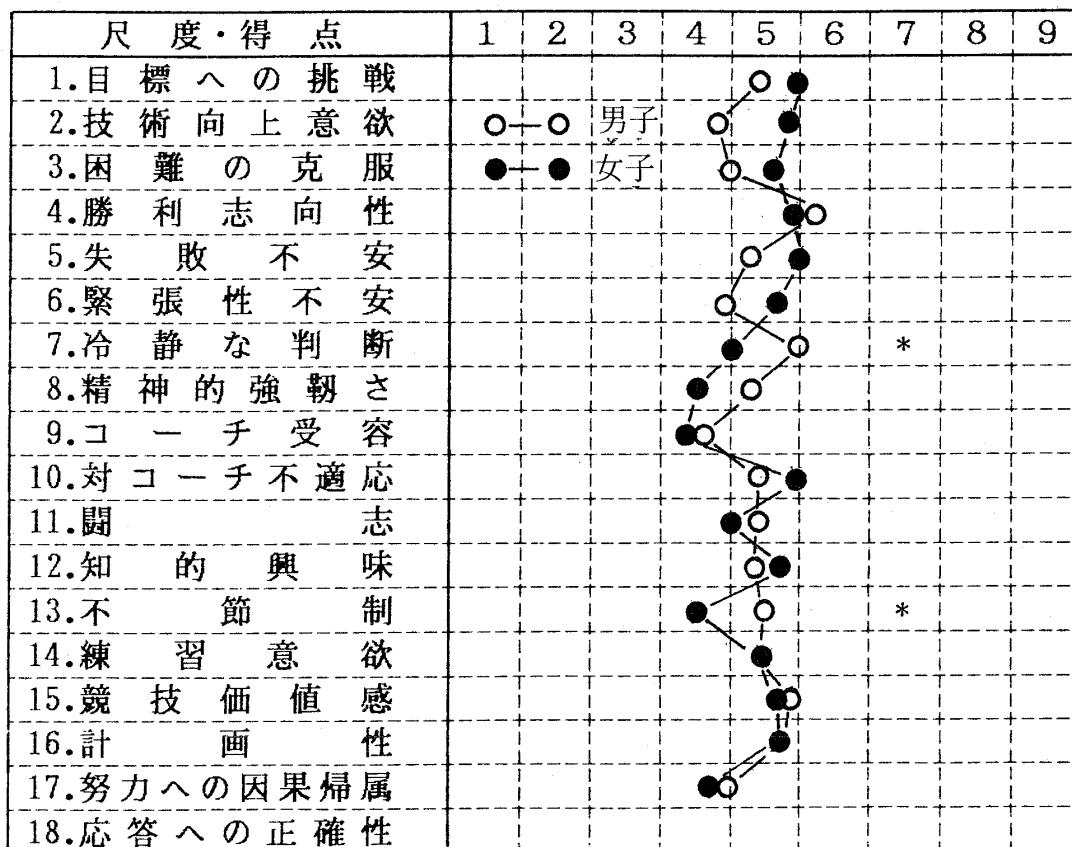


図 3. TSMI 下位尺度の男女比較

が確認された。

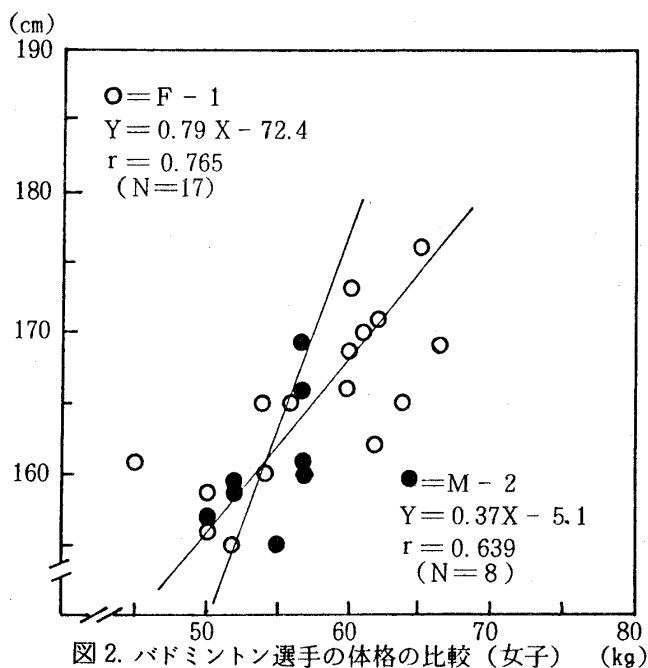


図2. バドミントン選手の体格の比較 (女子) (kg)

尚、図1および図2に回帰直線が示されているが、男子全体の回帰方程式は  $Y=1.11X-125.5$ 、女子全体は  $Y=0.70X-57.5$  であった。(Y=体重、X=身長)

2) 心理的適性について

TSMIの結果の処理は、松田らの方法と同様に各項目に対する反応に1点から4点までの得点を与える4件法で行なった。さらに各下位尺度に含まれる項目得点の合計点を下位尺度の得点として算出した。つまり、これらの得点が高いほど各尺度の特性が強い傾向にあることを示す。

表2は、本研究で得られた男女別のTSMI得点の各17下位尺度得点と基準値(約40のスポーツ種目について市町村大会レベルから国際大会レベルまでの出場選手3964名から算出したもの)との比較である。その結果、有意な差があったのは、男子群ではTS2(技術向上意欲)、TS4(勝利志向性)とTS9(コーチ受容)であった。女子群ではTS8(精神的強靱さ)、TS9(コーチ受容)

表2 TSMI下位尺度得点の基準値との比較 (t値)

尺度・得点	男子 (N=25)	女子 (N=25)
1.目標への挑戦	-0.128	0.640
2.技術向上意欲	-2.156 *	0.673
3.困難の克服	-0.768	0.256
4.勝利志向性	2.549 *	1.553
5.失敗不安	-0.434	1.519
6.緊張性不安	-1.338	0.365
7.冷静な判断	1.180	-1.183
8.精神的強靱さ	0.142	-2.425 *
9.コーチ受容	-2.620 **	-2.861 **
10.対コーチ不適応	0.108	1.083
11.闘志	0.249	-0.623
12.知的興味	-0.663	0.000
13.不節制	0.855	-2.281 *
14.練習意欲	-0.249	-0.125
15.競技価値感	0.896	0.511
16.計画性	0.262	0.000
17.努力への因果帰属	-0.440	-1.762
18.応答への正確性	-2.324 *	0.998

\*\* P<0.01 \* P<0.05

およびTS13(不節制)であった。

表3および図3は、TSMI下位尺度得点の男女比較である。有意な差があったのは、TS7(冷静な判断)とTS13(不節制)のみであった。全体的にみて女子群の方が望ましい傾向を示した。統計的には有意な差ではないが、達成意欲は女子群の方が高く、逆に不安傾向は男子群の方が低い傾向を示した。この傾向は、これまでの報告と類似しており、興味深い結果である。今後の選手指導におけるがかりとして有用であると思われる。

表4および図4は、TSMI下位尺度得点の男子における群間の比較である。いずれの下位尺度にも統計的に有意な差はなかったが、全体的にみてM-2群の方が望ましい傾向を示しており、予想とは異なるものであった。

## 2. 結果と考察

### 1) 体格適性について

TSMIの回答用紙のフェイスシートに設けられた記入欄に、現在の身長および体重の値を正確に記すよう教示し、それぞれ0.5 cm<sup>2</sup> (kg) 単位で記入させた。表1は、それらの値およびそれらに

表1 バドミントン選手の体格比較

		身長 (cm)	体重 (kg)	H-W指数
男子全体	$\bar{X}$	175.3	69.2	106.0
(N=25)	S.D	5.3	7.0	3.8
M-1群	$\bar{X}$	175.0	68.6	106.7
(N=9)	S.D	5.4	6.3	2.9
M-2群	$\bar{X}$	175.3	69.5	105.8
(N=16)	S.D	5.3	7.3	4.1
女子全体	$\bar{X}$	163.7	56.8	107.0
(N=25)	S.D	5.8	5.3	3.9
F-1群	$\bar{X}$	165.2	57.8	107.4
(N=17)	S.D	5.7	5.9	4.1
F-2群	$\bar{X}$	160.6	54.6	106.0
(N=8)	S.D	4.4	2.7	3.5

all non-significant

基ずいて算出した体格指数の群間の比較である。

H-W指数は、横堀の考案した身長・体重差指数<sup>28)</sup> (身長から体重を差し引いたもの) である。

体格値についてM-1群とM-2群を比較した結果、身長、体重ともM-2群の方が大きな値を示したが、いずれの値も統計的には有意な差はなかった。体格指数についても統計的に有意な差はみられなかった。つまり、両群ともきわめて似た体格・体型であることを示した。

次いで同年代の基準値とそれぞれの体格値を比較した。その結果、バドミントン選手群は身長、

体重とも基準値よりも大きな値を示し、その差は統計的にも有意であった。以上の結果から、男子選手は同年代者の体格と比較した場合、体格的に優勢であるが、技量でみた選手間の差は顕著なものでない。

同様に体格値および体格指数についてF-1群とF-2群を比較した結果、F-1群の方がいずれの値も大きかったが、その差は全て統計的に有意ではなかった。

次いで同年代の基準値と比較した。その結果、身長、体重ともに選手群の方が大きく、統計的にもその差は有意であった。

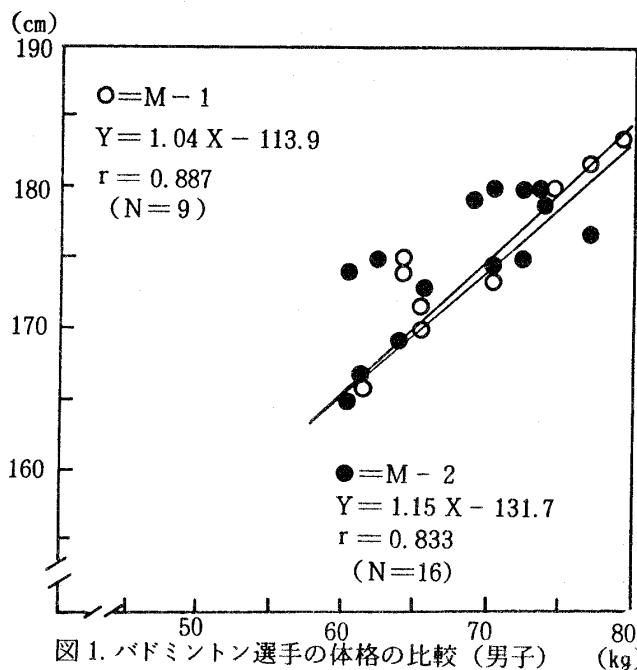


図1. バドミントン選手の体格の比較 (男子)

図1および図2は、本研究の対象者の身長と体重を2次元で群別にプロットしたものである。各群の相関係数は、それぞれM-1=0.887、M-2=0.833、F-1=0.765、F-2=0.639、男子全体は0.848、女子全体は0.755であった。男女とも極めて高い相関があり、各群ともに体型的に似かよっていることを示している。これまでの報告と同様にバドミントン競技における体格適性の存在<sup>22)</sup>

(1) 目標への挑戦

設定した目標に対して、どの程度強い執着心を持ち、その達成に向かって努力できるかを示す。

(2) 技術向上意欲

より高度な技術、新しい技術の習得に対して、どの程度強い意欲をもっているかを示す。

(3) 困雑の克服

困雑な状況に直面したり、失敗をしてもくじけたりあきらめたりせず、それを乗り越えて努力できる程度を示す。

(4) 勝利志向性

勝負に勝つということにどの程度高い価値観をもっているか、勝つことにどの程度執着心をもっているかを示す。

(5) 競技を始める前から、試合で失敗したり負けたりすることをどの程度不安に感じ、神経質になるかを示す。

(6) 緊張性不安

試合の時や危機的場面に直面した時、緊張しすぎたり、カーッと我を忘れてしまうなど、いわゆるあがりやすさの傾向を示す。

(7) 判断の冷静さ

試合を含む緊張や情緒的な興奮を引き起こしやすい場において、どの程度冷静で落ち着いて自分の置かれている場の状況の判断ができるかを示す。

(8) 神経的強靱さ

失敗や敗戦など神経的に落胆しやすい場面において、どの程度くじけず、なげやりにならないでいられるかを示す。

(9) コーチ受容

指導者（コーチ）の指導・助言をどの程度信頼し、素直に受け入れ、コーチに頼っているかを示す。

(10) コーチへの不適応

指導者（コーチ）と人間関係が親密でなく、感情的にじっくりいっていないと認知する程度を示す。

(11) 闘志

競争場面において、どの程度強いファイティングスピリットをもつかを示す。

(12) 知的興味

目標を達成するための手段として利用するために、スポーツに関する客観的な情報をどのくらい強く求めているか、すなわち、スポーツに関して、どの程度強い知的関心をもっているかを示す。

(13) 不節制

毎日の生活習慣をどの程度競技のことを考えて節制し、律しているかを示す。

(14) 練習意欲観

日常生活における練習の位置づけ、すなわち、普段の練習にどの程度意欲をもって打ち込んでいるかを示す。

(15) 競技価値観

自分の人生において、競技生活にどの程度高い価値観を与え、競技に打ち込んでいるかを示す。

(15) 計画性

行き当たりばったりの思いつきでなく、どの程度計画的に練習をし、試合に臨むかを示す。

(17) 努力への因果帰属

勝負や成功・失敗の原因をどの程度自己の努力のせいであるかと考えるかを示す。

(18) 応答の正確性

どの程度注意深く質問を読み、適正に回答しているかを示す。不注意やいいかげんなでたらめ回答をチェックする尺度である。



# バドミントン競技適性に関する研究 (第3報)

— 傑出選手の心理的適性と体格適性 —

藤田 明男

A Study of Badminton Athletic Aptitude (part 3)

— A psychological and physique aptitude of superior badminton athletes in Japan —

by Akio Fujita.

## 1. 緒 言

スポーツ選手の心理的適性に関連する競技達成動機の研究は、従来の達成動機の理論や方法をスポーツ競技に適用してなされていた。これらの研究に対して、スポーツ行動と直接関連する達成動機を測定する意義が強調され、日本体育協会スポーツ科学研究委員会スポーツ選手の心理的適性に関する研究プロジェクトチームによって TSMI (Taikyō Sport Motivation Inventory) が開発され、スポーツ適性としての心理的適性に関する報告がなされている。<sup>8),17)</sup>

これまでこのTSMIを測度として性差、競技力レベル、競技経験年数、年齢、スポーツ種目、種目類型、時間経過、時期、集団反応、向性、不安傾向、価値観、学業成績、ポジションおよび民族などの諸要因について各種のスポーツを対象に報告がなされている。

バドミントン競技における心理的適性および体格性について、これまでに主としてジュニア選手を対象として報告してきた。今回は現在の日本における傑出選手を対象として、その心理的適性と体格適性について検討を試みたものである。

## 1. 方 法

### 1) 対象

国際大会である1989年度ジャパン・オープンに出場した選手の男子25名(年齢:  $X=22.7$ ,  $S.D.=3.9$ )と女子25名(年齢:  $X=21.0$ ,  $S.D.=2.6$ )の計50名の資料について検討した。対象者の内訳と人数は次の通りである。

男子強化指定選手群(M-1群、 $N=9$ )、男子一般選手群(M-2群、 $N=16$ )、女子強化指定選手群(F-1群、 $N=17$ )、女子一般選手群(F-2群、 $N=8$ )。

### 2) 実施方法

1989年1月18日に日本選手団の宿舎において調査した。

### 3) 測度

TSMI(体協競技動機テスト)を用いた。これは日本体育協会スポーツ科学研究委員会プロジェクトチームの「スポーツ競技者の心理的適性に関する研究班」によって作成されたもので146個の質問項目からなり、スポーツ競技者の動機や意欲的側面などを測定するものである。因子分析法により得られた以下の18の諸特性(下位尺度)が測定できる。<sup>22)</sup>